

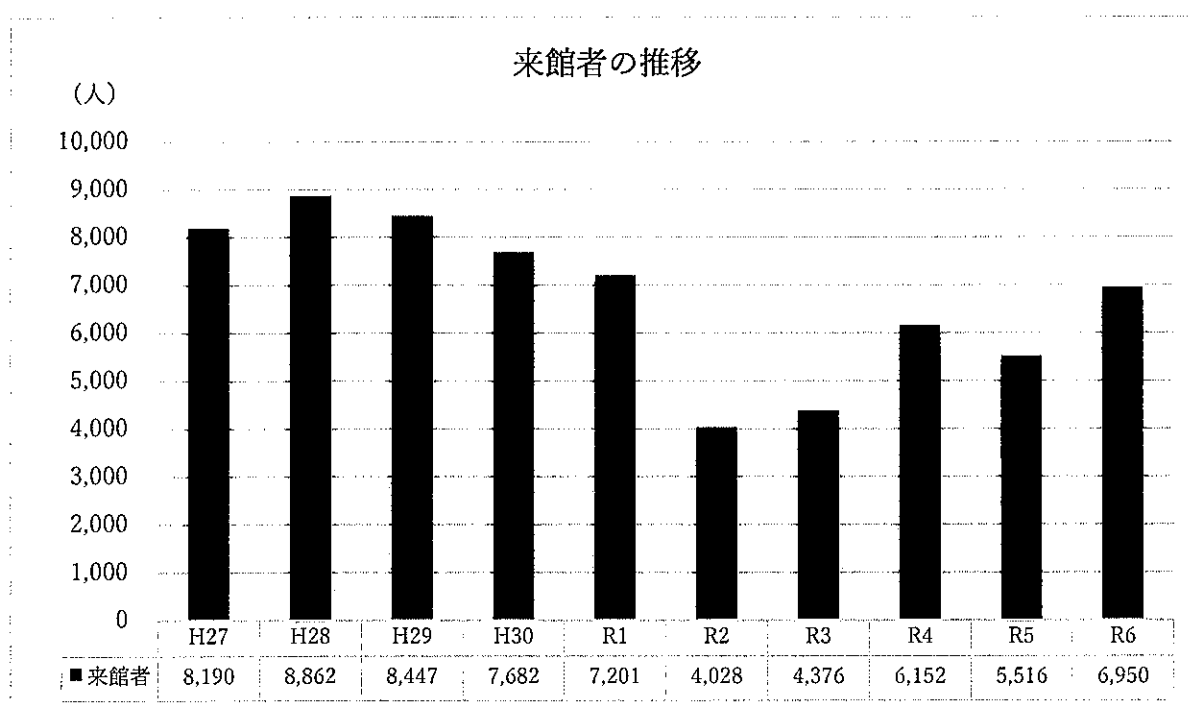
(様式第2号)

香月泰男美術館指定管理者事業計画書

団 体 名	(公財)長門市文化振興財団			
代表者氏名	大谷恒雄	成 立 年 月 日	平成 11 年 9 月 1 日	
団体所在地	長門市仙崎 10818 番地 1			
電 話 番 号	26-6001	F A X	26-6002	
E - m a i l	kanri@renaissa-nagato.jp			
運営実績のある 類 似 施 設 名	所 在 地	主 な 業 務 内 容	運 営 年 月	
ルネッサながと	長門市仙崎 10818 番地 1	施設維持管理・運営	開始	平成 12 年 3 月
			終了	年 月
くじら資料館	長門市通 671 番地 17	施設維持管理・運営	開始	令和 3 年 4 月
			終了	年 月
村田清風記念館	長門市三隅下 2510 番地 1	施設維持管理・運営	開始	令和 3 年 4 月
			終了	年 月
金子みすゞ記念館	長門市仙崎 1308 番地	施設維持管理・運営	開始	令和 4 年 4 月
			終了	年 月
長門市文化会館	長門市油谷新別名 10833 番地	施設維持管理・運営	開始	令和 7 年 4 月
			終了	年 月
事 業 計 画				
【経営方針及び団体の理念について】 1 指定管理者の指定を申請した理由 私どもは、地域住民一人一人が文化を享受し、文化を育み、文化を創り出すことができる環境を整えることにより、豊かな伝統文化の継承・発展と新たな地域文化活動の振興を図り、真に豊かさを実感できる地域社会「豊かでうるおいのあるふるさと長門」の形成と進展に寄与することを目的として、平成 11 年 9 月に設立された文化振興財団です。平成 12 年のルネッサながとの開館以来、施設の維持管理に従事し、その後、23 年からは公益法人に移行し、公益の増進という社会的責任を担う立場を明確にして、事業運営を進めています。この経験と実績を活かし、長門市内の文化施設を一体的に管理することで、今まで以上に施設運営の効率化が進み、利用者の利便性やサービスの質の向上、広報・集客力の強化につながることが期待されます。そこで、より効果的に、地域の活性化と魅力ある文化のまちづくりに寄与しくことを目的に、指定管理者に応募しました。				

2 施設の現状に対する考え方及び将来展望

香月泰男美術館は、洋画家・香月泰男画伯が生涯こよなく愛した故郷の三隅に立地する長門市唯一の美術館であり、市民の美術に関する知識及び教養と文化の向上を進める拠点施設となっています。来館者は、平成 27 年度以降が平均 8,000 人、過去 3 ヶ年では平均約 6,200 人で推移しており、少しずつですが、コロナ禍前の水準に戻りつつあります。美術館は、香月画伯の初期から晩年までの油彩画や素描画、オモチャなど、香月家で大切に保管されていた作品が多数収蔵され、戦後の日本美術史を代表する作品に触れることができる特異性があり、長門市が誇る美術館として、これまで以上に発信力を高め、より地域に開かれた施設となることが求められています。



【施設の運営について】

1 サービスを向上・利用を促進させるための方策

「美術を通じた地域の交流拠点施設」を目標とすべき姿として、以下の数値目標を設定するとともに、次の取り組みを行います。

<数値目標>（令和 8～12 年度）

来場者：9,000 人

満足度：80%以上

<達成方策>

当財団は、「地域社会及び市民の文化の向上及び福祉の増進を図る」という施設の設置目的を、各種事業を通じた文化的体験の提供により果たしていきたいと考えています。

この内容の充実が利用者に対する最大のサービス向上策であり、来場促進に向けた最善の取り組みとの認識のもと、次の取り組みを行います。

(1) 利用者視点に立ったサービス向上の取り組み

① 接遇の向上

全職員を対象に毎年接遇研修を行い、来場者を「おもてなし」の心と笑顔でお迎えします。また、館内では定期的な見回りを行い、施設案内等のサービスを提供するなど、常に接客スキルを高めることに努め、顧客満足度の拡大とリピーターの確保につなげていきます。

② わかりやすい案内表示

幅広い年齢層や障害者、外国人にも展示内容を理解してもらえるよう、案内表示やパンフレットの工夫を行います。

(2) 利用促進に向けた取組

① 新規顧客とリピーター率の向上

美術館周辺の恵まれた観光資源を活用し、観光施設や飲食店、旅行会社等と連携した優待サービスの検討や教育機関と連携した校外学習の候補地としての提案などに取り組み、施設を訪れる動機付けの拡大に努めます。また、過去の来館チケット提示や来館回数に応じて特典を付与するなど、来館履歴を活かしたりリピーター特典を検討します。

② 積極的な情報発信

美術館からの定期的な情報発信は欠かせないものと考えます。ホームページ、ソーシャルメディア等各種ツールを用いた発信や、当財団がこれまで培った情報網を活かし、他施設とも連携した積極的な情報発信に努めます。

③ 市内文化施設とのネットワーク構築

市内文化施設の一体的な管理をめざすとともに、その利点を最大限に活かし、連携事業や施設間の周遊ツアー、相互優待サービスなどを企画していきます。また、文化施設同士の人的交流を進めることで、施設運営の活性化につなげていきます。

2 利用者等の要望の把握及び対応方針

来場者にアンケート調査を行い、利用者のニーズの把握や満足度を調査し、定期的な自己評価を実施して業務の質とサービスの向上に努めます。利用者からいただいたご意見やご要望は、当財団からの回答を添えて館内等で公開し、業務の改善につなげます。

3 利用者のトラブルの未然防止と対処方法

事故や不審者・不審物による犯罪の早期発見と未然防止のため、スタッフ全員が防犯・防災への高い意識をもって日常的に施設内外の巡回を実施するとともに、小さな事故や気付きを共有し、その対応についての打ち合わせを行うなど、利用者の安全確保に努めます。また、リスク対応マニュアルを整備して、周知と定期的な訓練に努めます。

4 その他（自主事業、地域との連携、他施設との連携等）

（1）自主事業

地域に開かれた美術館となることを目指し、「企画・展示・情報発信事業」「教育普及事業」の2つの柱からなる自主事業を企画・実施します。

① 企画・展示・情報発信事業

- ・香月画伯の魅力を発信するため、長門市が行う学芸業務を補助し、企画展示や様々なメディアを通じて、より広く全国に発信していきます。

② 教育普及事業

- ・学芸員と連携し、学校等への美術教育支援や出前授業、おもちゃづくり教室などのワークショップの開催を通じて、児童生徒に香月画伯の世界や美術への関心を高めるよう努めます。
- ・他の美術館が企画する香月画伯を採り上げた展覧会に積極的に応じるなど、香月画伯の世界をより広く認知してもらえよう努めます。
- ・収蔵資料については、後世に伝えるべき大事な市民の財産と認識し、可能な限り良好な状態で次世代に引き継げるよう、最大限配慮します。

（2）地域との連携

施設の利用を活性化していくためにも、より多くの地域の方々が施設に関わり、交流を進めていくことが必須と考えます。これまでの施設運営で培った人的ネットワークや地域の教育機関、公民館、文化団体などと交流し、意見交換を重ね、ともに魅力ある地域づくりに努めます。

（3）他施設との連携

当財団は、20年余りにわたるルネッサながとの維持管理、運営を通じて、観光施設や各種団体との連携強化に努め、観劇ツアーや温泉宿泊プラン、温泉商店街割引チケット、企業プレイガイドなど様々な誘客の取り組みを進めてきた実績があります。この経験を

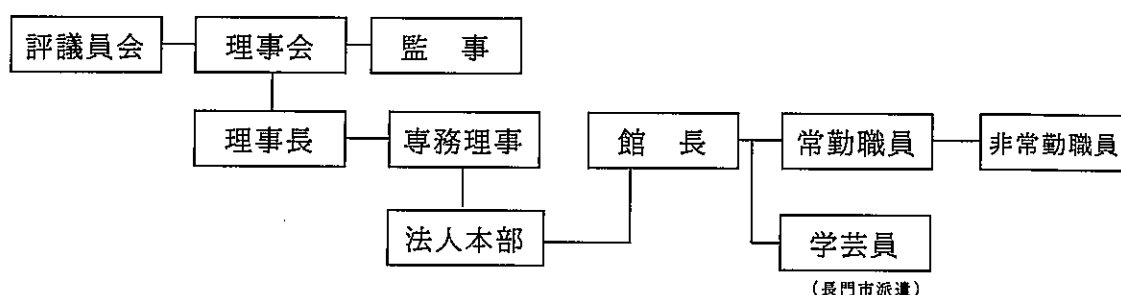
もとに、市内の他の文化施設はもとより、県内の関係機関や各種団体と連携し、利用促進につなげていきます

【施設の管理について】

1 職員の配置（指揮命令系統がわかる組織図を含む）

学芸員を除く館長以下6名の編成を管理運営の基本体制とし、休館日を除き、月毎のローテーション勤務により運営します。予定外の事象等が発生した場合は、法人事務局と協議し、当財団が管理する他施設からの補充や配置等により対応します。財団管理の利点である意思決定の早さと意思疎通の緊密さを最大限に活かし、適正かつ円滑な管理運営にあたります。

当財団就業規程に基づき、土・日・祝日に相当する日数と休館日を休日とし、勤務時間を午前8時30分から午後5時15分までとします。勤務は、1日3人体制とし、勤務時間の割り振りを行います。



2 職員の研修計画

安定したサービスを継続して来場者に提供するため、接遇研修や様々な業務に関係する各種研修会への積極的な参加、類似施設への視察等、職員の資質向上に努めます。

3 安心・安全の面からの管理運営に向けた防犯・防災の対応

利用者の快適性と安全性の確保、並びに施設設備の正常な稼働は、施設運営の根本となる部分であり、絶対条件と考えます。利用者にとって安全・安心で快適な施設環境を維持していくため、法令等に基づく各種点検を確実に実施するとともに、スタッフによる日々の点検をすべての基本として、有事に備えます。

4 災害発生時等の緊急時における対応

火災、地震、風水害等の緊急時には、館長を本部長とする危機管理本部を設置し、救護、連絡調整などの担当職員を配置します。また、緊急時に適切な初動対応が行えるよう、施設内に備えられた防災機器について、日常的に確認し、取扱方法を徹底します。

5 個人情報の保護

施設の管理運営上知り得る主な個人情報は、「施設利用者の情報」「アンケート回答者の情報」となります。この情報は、サービスに関わる情報提供や案内書等の発送の目的で使用します。個人情報の保護は、施設の管理運営上重要な責務として、厳正な管理が求められます。当財団は、理事長を個人情報保護責任者とする独自の個人情報保護方針を制定して、個人情報の厳正な管理を行っています。今後も、関係法令を遵守して、情報の紛失・漏えい・改ざん等が発生しないよう、適正な管理に努めます。

6 経理処理の方法

施設に会計責任者を置き、当財団財務規程に従い、収支計算、備品の管理及び物品の出納に関する帳簿を作成し、適正に経理を行います。

7 管理経費縮減のための工夫

こまめな冷暖房の管理や消灯の実施、書類の電子化を進め、経費節減、省エネルギー及び環境への配慮に努めます。

【その他 特記すべき事項】

私どもの財団は、平成 11 年 9 月に設立され、同 12 年のルネッサながと開館以来、約 25 年間、施設の維持管理・運營業務に従事してきました。その間、300 万人を越える利用者を受け入れ、5 万件以上の貸館業務の受け付けや 750 件を越える自主事業を企画・実施してまいりました。この間培った人的ネットワークは全国に及びます。これらの経験と実績を本記念館の管理運営に活かしていきたいと考えます。

自主事業計画書（8年度）

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
所蔵品による企画展	所蔵作品や資料を紹介する企画展。 8年度は、香月が初めて渡欧して70年を迎えることから、海外スケッチを中心に展示。 海外スケッチ展Ⅰ（3～5月） 海外スケッチ展Ⅱ（7～9月） 海外スケッチ展Ⅲ（10～1月）	シリーズに分けて年3回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
香月泰男のシベリヤ・シリーズ	山口県と長門市の覚書に基づき、山口県立美術館所蔵のシベリヤ・シリーズを借用し、美術館所蔵のエスキース（習作）と比較展示。	7～9月

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
おもちゃづくり教室	香月画伯が廃材を利用して制作したオブジェは“おもちゃ”と呼ばれて親しまれている。三隅の豊かな木材資源を利用して、創造力を育む教室を実施。	8月

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
資料アーカイブ	香月画伯の業績を顕彰する美術館として、一次資料（展覧会図録・文献等）のアーカイブ化を進める。	通年

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
出前講座	香月画伯の作品の世界を通じて、児童・生徒の美術への関心を高めるため、学校等への出前講座を実施する。	要請に応じて